

令和7年度第1回安全保障
定期講座（第96回）森下陸上
幕僚長講演の紹介

安全保障研究委員会



衛隊が実施した陸上自衛隊フォーラムの支援・協力等を通じ、防衛基盤の強化拡充を図り、我が国の平和に関する国政の健全な運営の確保に寄与して参りました。

安全保障研究委員会としては本年度も同様な活動を予定していますが、令和7年度のスタートとして4月24日（木）、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、令和7年度第1回安全保障定期講座（通算第96回）を開催しました。

今回の講座は、令和7年度の幕の切り落としとして講師として森下陸上幕僚長をお迎えし、「陸上自衛隊の取り組みについて」について講演を実施していただきました。

本講演には、会員のほか企業等からの一般参加者を含む合計150名余りの聴講者が参集し、会場は開始前から大変な熱気に包まれました。

講演に先立ち、火箱芳文理事長が主催者挨拶を行い、陸修偕行社の誕生の経緯及び設立の目的を紹介するとともに、一年間の陸修偕行社の活動を振り返るとともに、陸修偕行社に対する理解と支援・協力の拡大を呼びかけました。

陸幕長講演では、我が国が直面す

る戦後最も厳しく複雑な安全保障環境を概観するとともに、令和4年12月に策定された「安全保障三文書」（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）について説明し、これらの文書において示された「防衛力の抜本的強化」の一環として現在陸上自衛隊が行っている取り組みについて詳しく紹介されました。

特に「防衛力の強化」においては、態勢・体制の整備状況、同盟国・同志国連携、練成訓練、人材の確保・育成について自らの経験や陸上幕僚長としての思いを熱く、時折ユーモアを交えながら語られ会場を埋め尽くした聴講者は熱心に耳を傾けていました。

また「安全保障三文書」作成当時よりも厳しさを増している情勢変化に対応する戦い方と課題として「アジリティー（俊敏性）」、「スペリオリティー（優位性）」、「レジリエンス（抗堪性）」の重要性を強調されるとともに同盟国・同志国との陸軍種のつながり、ランドパワーネットワークの強い絆を構築する必要性を述べられ、これらを着実に推し進めていくことを力強く語られました。

最後に森下陸幕長から陸修偕行社

の今後の活動に対する大きな期待と本年度12月に実施予定の陸上自衛隊フォーラムをさらにワールドワイドに発展させたランドパワーフォーラムインジャパンへの協力・支援を要望され陸幕長講演は盛況のうちに幕を閉じました。

閉会の挨拶では、湯浅安全保障研究委員長から陸幕長への講演に対する感謝及び9月に実施予定の「防衛産業戦略」をテーマにした安全保障シンポジウムの概要等、今後の活動が示され、陸修偕行社会員、賛助会員等の皆様のさらなる参画が促されました。

安全保障講座に引き続き実施された意見交換会においても陸幕部長・課長、在市ヶ谷指揮官等、30名余りの現役の皆さんの参加もあり、陸修偕行社会員・賛助会員等と活発な意見交換がなされ相互理解を進展させるとともに、会員相互の親睦を深めることができました。

陸修偕行社安全保障研究委員会は、引き続き安全保障等に関する調査・研究・提言及び普及に係る活動を積極的に展開していきますので、皆様のより一層のご理解とご賛助をよろしく願います。